

平成 26 年度第 2 回宇都宮大学経営協議会議事要録

日 時 平成 26 年 6 月 25 日（水）10 時 00 分～11 時 31 分
場 所 宇都宮大学本部第一会議室
出席者 進村，飯村，板橋，観堂，木村，須賀，角，浜村，増山，森，築，石田，
井本，茅野，加藤，田巻，藤井，石井，杉田の各委員
藤井監事，堀監事

議事に先立ち，平成 26 年度第 1 回宇都宮大学経営協議会議事要録（案）を確認し，原案のとおり承認した。

[議 題]

1. 国立大学法人宇都宮大学業務方法書の変更（案）について 資料 1
石田理事及び企画広報課長から，資料 1 に基づき，国立大学法人宇都宮大学業務方法書の変更（案）について説明があり，審議の結果，原案のとおり承認した。

2. 平成 25 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について 資料 2
石田理事から，平成 25 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について説明があり，審議の結果，文部科学省法人評価委員会への提出時までには修正等が生じた際は，役員会に一任することとし，原案のとおり承認した。
(主な意見等)
 - ・「大学改革」(p. 7) に新学部（地域デザイン科学部（仮称））の設置構想が記載されているが，本学が従来から進めている地域貢献から見た新学部の位置づけについて伺いたい。
また，構想を練るにあたっては地域のニーズがどのようなものなのかをよく調査し，意見を反映したものを文部科学省にぶつけていただきたい。
(→新学部については，現在，文部科学省とやりとりを進めているところで，この後の報告事項（3. 宇都宮大学の大学改革について（資料 7））で説明させていただきます。）

3. 平成 27 年度概算要求（案）について 資料 3
財務課長から，平成 27 年度概算要求（案）について説明があり，審議の結果，プロジェクト分及び基盤的設備等整備分の新規分に係る順位付け及び文部科学省との事前相談において調整等の必要が生じた際の対応については役員会に一任することとし，原案のとおり承認した。

4. 平成 25 年度決算（案）について 資料 4
財務課長から，平成 25 年度決算（案）について説明があり，審議の結果，原案のとおり承認した。

[報告事項]

1. 国立大学法人宇都宮大学学長選考会議委員について 資料 5

学長から、資料 5 に基づき、国立大学法人宇都宮大学学長選考会議委員について、選出にあたっての経緯等を含め報告があった。

2. 平成 26 事業年度会計監査人の選任について 資料 6

学長から、資料 6 に基づき、文部科学大臣から、平成 26 年度の本学の会計監査人として「有限責任あずさ監査法人」が選任された旨の報告があった。

3. 宇都宮大学の大学改革について 資料 7

学長から、資料 7 に基づき、5 月 7 日及び 6 月 6 日に文部科学省へ説明した「宇都宮大学の大学改革構想」及び「新学部（地域デザイン科学部（仮称））設置構想」について、概要と今後の予定等の報告があり、併せて各委員に対し支援の依頼があった。

（主な意見等）

- ・ この改革を中心となって推進する体制、また新学部を学生をどう呼び込むのかなど課題は多いと思われるが、それをやろうとするやる気が大切である。
地域の課題には地域格差、これは栃木県だけでなく全国の問題である。更には、我が国だけでなく米国でも問題になっており、もはや世界的なものである。本構想はたいへんユニークであり、うまく立ち上げることができれば、本学の力になると思う。一方で、フィールドワークが重要な分野でもあるので、県内とうまく連携して進めていただきたい。意欲的では素晴らしいことである。
- ・ 現政権も地域活性化に力を入れているので、この方向性を是非進めてほしい。宇都宮大学の強みは農学部と工学部を持っているところである。総合科学技術会議の戦略を見ても、地域の発展の項目では農工連携の方向に振れている。そちらに的を絞って強化するのがよいのではないか。

新学部が設置された場合の、学生のモデルキャリアパスについて伺いたい。

（→ 3 学科の設置を計画しているが、コミュニティデザイン学科は社会科学系で、具体的には県や市の行政職公務員を想定している。従来の行政職に求められる能力に加えて、統計分析などの理系の能力を備えた人材を供給したい。

また、他の学科については、従来の建築、土木をベースにしているが、単なるハードの構築ではなく、地域をトータルにデザインしマネジメントするうえで、社会科学の基礎知識や住民とのコミュニケーション能力を備えた人材の養成を想定している。）

- ・ 大変良い試みである。地域の課題を如何に把握するか、きちんとマッチングが取れるようにしないといけない。そのためには、期間を決めて自治体や企業等でインターンシップをしっかりと行い、実務を通して課題を見つけるという方法もあるのではないか。

また、それをキャッチフレーズにすることも良いのではないか。

（→ ご指摘のとおりだと思う。プログラムの詳細はこれから検討を進めるところであるが、地域自治体へのインターンシップなどにより、1 年次から問題意識を高めていけるようなプログラムを用意したいと考えている。）

4. 平成 26 年度学生数について

資料 8

茅野理事から、資料 8 に基づき、平成 26 年度学生数（平成 26 年 5 月 1 日現在）について報告があった。

5. 平成 25 年度大学卒業・大学院修了者の就職等進路状況について

資料 9

茅野理事から、資料 9 に基づき、平成 25 年度大学卒業・大学院修了者の就職等進路状況について報告があった。

6. その他

参考資料

学長から、参考資料に基づき、平成 26 年 4 月から 6 月における本学関係記事について紹介があった。

チラシ

石田理事から、チラシに基づき、「とちぎグローバル人材育成プログラム」について報告があった。

資料

石田理事から、資料に基づき、JR 宇都宮駅の新幹線・在来線改札口前に設置する電飾看板用のデザインについて報告があった。

以 上